

新型コロナウイルス感染禍のなか、改めて働き方や働く場所が見直され、様々な試みが行われています。そのひとつにワーケーションがあります。ワーケーションは仕事と休暇を組み合わせた試みであり、休暇の目的は自然環境での休息、文化的資源からの教養・知識の習得、地域交流、娯楽など多様です。当研究会では文化的資源のひとつである社寺の境内に焦点を当て、その空間特性を生かしながら仕事と休暇の新たな価値を生み出す空間のデザインを若手建築家と共に提案いたします。

-- 企画 --

中崎 隆司 なかさき たかし
建築ジャーナリスト・生活環境プロ
デューサー

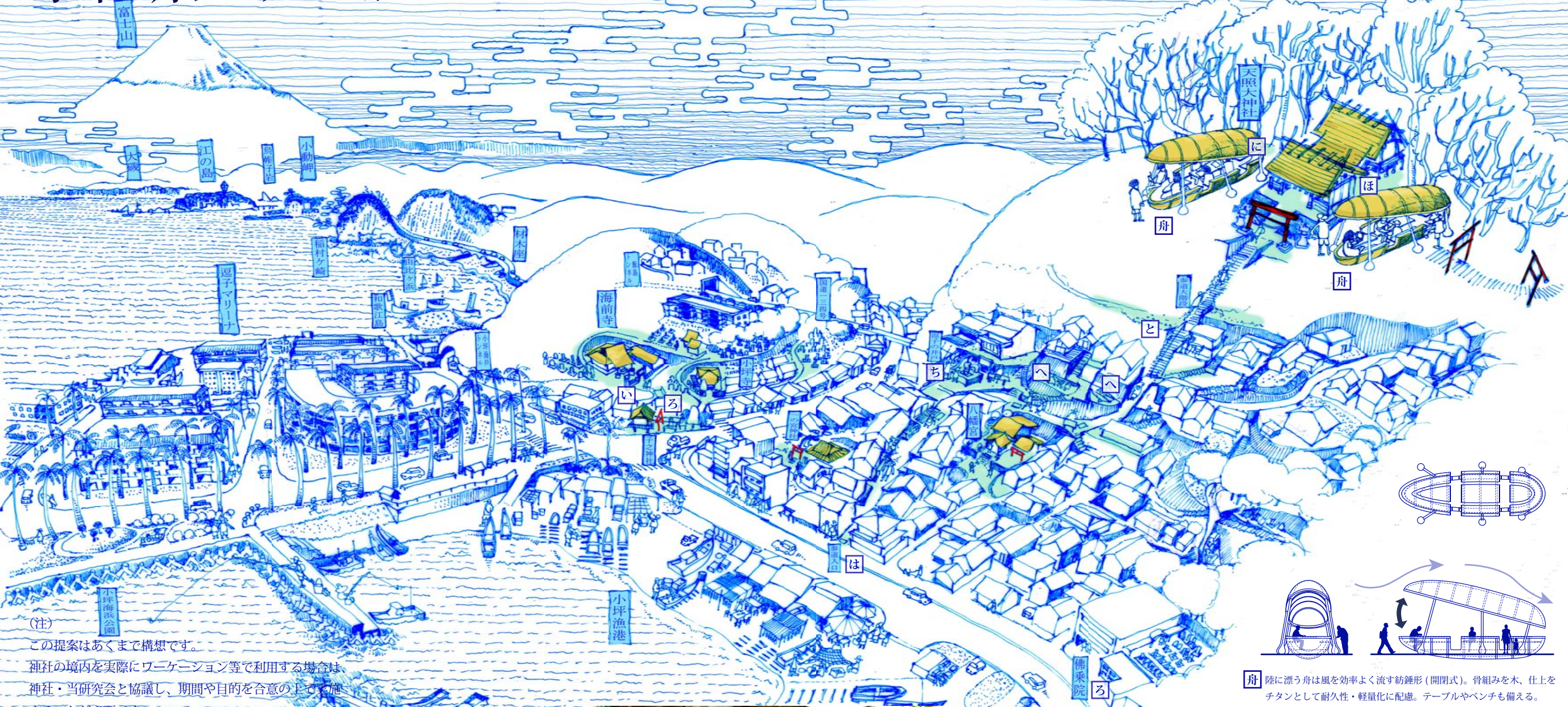
生活環境の成熟化をテーマに都市と建築を対象にした取材・執筆ならびに、展覧会、フォーラム、研究会、商品開発などの企画をしている。著書に『建築の幸せ』『ゆるやかにつながる社会—建築家31人にみる新しい空間の様相—』『なぜ無責任な建築と都市をつくる社会が続くのか』『半径一時間以内のまち作事』などがある。

-- デザイン --

伊藤 立平 いとう たっぺい
建築家。1974年神奈川県鎌倉市生まれ。1998年東京工業大学建築学科卒業、2000年同大学大学院総合理工学研究科人間環境システム修了。株式会社日建設設計勤務を経て、2011年伊藤立平建築設計事務所設立。日建設設計在籍時に建築人賞、日本建築家協会優秀建築選、日本建築学会作品選集。独立後に、JCD Design Award 銀賞、SDレビュー入選、JIA 中国建築大賞特別賞、DSA 日本空間デザイン賞入選、キッズデザイン賞、ウッドデザイン賞など。設計に関わり山口県長門市に開館した「長門おもちゃ美術館」は、様々な反響を呼び多くの方に親しまれている。

田邊 雄之 たなべ ゆうじ
建築家。1975年神奈川県鎌倉市生まれ。98年明治学院大学フランス文学科卒業。00年ICS卒業。03年芝浦工業大学大学院建設工学専攻修了。00～06年 bews 一級建築士事務所。06年文化庁新進芸術家海外研修制度にて FOA/Foreign Office Architects (英国) に在籍し翌年勤務。08年田邊雄之建築設計事務所を鎌倉に設立。ICS、芝浦工業大学非常勤講師。グッドデザイン賞、住宅建築賞、軽井沢緑の景観賞、Arup Prize for emerging talent in architecture/Royal Academy of Arts (英国) などを受賞。設計をした「ワーケーションサイト軽井沢」(運営：三菱地所) は国内外で高い評価を得ている。

小坪の舟ワーケーション



(注)
この提案はあくまで構想です。
神社の境内を実際にワーケーション等で利用する場合は、
神社・当研究会と協議し、期間や目的を合意の上で実施
する必要があります。



心よく揺れる舟に乗り、木々の隙間からは眼下に漁港、遠くには富士山が望める。ここはリゾートマンションが建ち並ぶエリアと昔ながらの漁港・漁村が共存する神奈川県逗子市小坪の山頂、天照大神社。神社は網を繕う漁師や魚釣りをする少年が過ごす漁港エリアから、尾道のような坂の小路を駆け上がり、さらに石段を上った所に位置する。こぢんまりとした境内には屋根に鰹木と千木が施された本殿と、7～8人が入ることのできる拜殿が中央に配置され、周囲を木々が囲んでいる。海からの風が爽やかに抜け、見晴らしが良いながらも落ち着きのあるこの空間をワーケーションのサイトとして利用するのはいかがだろうか。そこには舟を想起させる家具のような東屋のような空間を用意し、木々によってやわらいだ潮風や木漏れ日などの自然をいっぱい感じながら仕事ができるのだ。一人でも、グループでも利用できる、身体的にちょうど良いスケールの舟が陸に漂っている。もちろん異趣同舟のごとく、その場の巡りあわせで、新たな創作のワークセッションが行われるかもしれない。時には舟をめざして遊びに来る子供達に(ピーターパンにとつてのフック舟長の舟は遊び場だ)、漂うワーカーの得意なプログラミングやデザインを通して、神社ではあるが寺子屋的に交流することができるかもしれない。そして座ってばかりのデスクワーカーが、この天界と地上を結ぶ170段の階段を駆け上がれば、立派なワークアウトにもなる。一方で東北の震災を経験した私たちは、残念ながら海の町に少し恐怖を抱くようになってしまった。山の上に安心できる舟があることは、町の人への日常における避難の想起にもなりえるのではないだろうか。サバイバルな観点からいえば、海からの道中には井戸も存在する。町の人たちが大切にしてきた神社、一宿一飯のごとく掃除や修繕をお手伝いすることが、大袈裟ではなく次の世代へ、未来へこの大切な場所を残す手助けの一翼を担うことになれば素敵な話である。あたりまえのように、夕陽が沈む相模湾を遠くに見ながら、幸せな一日は終わるのである。